



## 第 33 回家族会～ブレイクタイムズ 33 号～

7月29日に行われた第33回の家族会は「住み慣れた自宅で生活するためのヒント」というテーマで開催いたしました。

退院後に自宅へ帰る際には、病前と同じような生活ができるのか、転んだりして怪我をしないだろうかといった不安があると思います。そのため、福祉用具や自助具、環境設定の方法を知ってもらい、「自宅での生活に不安を残さないで帰って欲しい」という思いで発表させて頂きました。

自宅での生活では転倒予防が重要となってきます。足元にはなるべく物を置かないようにすることや段差の解消、手すりの設置等、工夫点や注意点は様々なものがあります。その中で、あるご家族からは「病院ではできていたことが自宅ではできなくなってしまった」ことや、「福祉用具をどこに配置すれば良いか」というような悩みが聞かれました。自分自身、具体的な解決方法を挙げられなかったのですが、家族会スタッフの的確なアドバイスによって、その悩みを抱えていたご家族の安心した表情が見られ、家族会の良さを改めて実感することができました。

今後も、「住み慣れた自宅でより良い生活をしてもらう。」という事を一番に考え、患者様一人一人の自宅環境を把握し、悩みや問題点を解決できるよう日々のリハビリに励みたいと思います。

今回、ご参加いただいた患者様やご家族、そして、準備等手伝ってくださった家族会スタッフの皆様ありがとうございました。



健康科学大学リハビリテーションクリニック 作業療法士 宮城大樹

